

令和7年度

No.	プロジェクト名	本学担当者	共同研究機関・担当者		研究内容(連携事業内容)
1	小学校における教科担任制からチーム担任制への推進について	田中 満	大津市立 仰木の里東小学校 校長 山尾 健一	教務主任 谷 勇蔵	仰木の里東小学校では、従来の学級担任制から、複数の学級担任が1つのクラスに関わることで、より多くの教員の目で児童を支援できるチーム担任制を実施している。昨年度から、高学年における教科担任による専科指導と、学級担任同士の交換授業を組み合わせることで、全学年で教科担任制を推進してきた。我が国では教科指導と学級指導が学校教育の両輪であることから、今年度は更に一歩進めて、学級指導(清掃活動等)も交換するようにした。また、隣の学級担任や教科担任をチーム担任(副担任)として、児童や保護者は学級担任と同様に、連絡・相談ができるようにした。本研究では、チーム担任制を推進する中で、その成果と課題を明らかにすることが目的である。
2	算数・数学教育実践研究セミナー	山下 亮	豊郷町立豊郷小学校 校長 上松 仁	教頭 大橋 宏星	公開授業や優れた実践事例の紹介を通じて、教員同士が授業改善のヒントを得られる機会をつくり、算数・数学における指導力の向上と授業力の底上げを目指す取り組みを推進する。
3	児童が学びをつなぎ、新たな気付きを生み出す授業づくり -小学校算数科における「授業改善シート」を活用した授業構想と授業評価を通して-	山下 亮	滋賀県総合教育センター 所長 太田 義人	係長 高田 真奈美 研修指導主事 海外 万紀子 研究委員 穴掘 春香	小学校算数科において、児童が蓄積した数学的な見方・考え方を活用して自分の考えをもったり、説明したりするための活動や支援を意識して授業構想を行うことで、児童が数学的な見方・考え方を豊かにし、様々な場面で活用できる姿につながる授業づくりを目指し、県下の算数教育の充実を図る。
4	算数科の授業力向上に関する研究	山下 亮	長浜市立長浜南小学校 校長 樋口 誠	長浜市立塩津小学校 教頭 中川 浩伸	長浜市小学校教育研究算数部会において、研修や公開授業を通じて指導技術や授業づくりの工夫を学び、市内の算数科を担当する教員の授業力向上を目指す。
5	中学校における「共に学ぶ」視点に立った授業づくり -特別支援学級での構想から実践、省察を校内で共有する取組を通して-	窪田 知子	滋賀県総合教育センター 所長 太田 義人	研究員 北川 真世	市内の算数を担当する教員の授業力向上を目的として、研修や公開授業を通じて指導技術や授業づくりの工夫を学び、児童の理解を深める質の高い授業の実現を目指す。
6	特別支援学校における子どもの可能性を引き出すICT活用のあり方 -実態に応じた指導・支援の充実と学校全体で推進していく校内連携を通して-	石田 基起	滋賀県総合教育センター 所長 太田 義人	学ぶ力向上係 主幹 高田 真奈美	子どもの実態や教育的ニーズに応じたアセスメントを行い、授業における指導・支援の充実を図る。また、ICT担当教員や自立活動部、研究部等と校内での連携を密にし、校内研修会やワークショップを実施することを通して、子どもの可能性を引き出すICT活用のあり方を明らかにする。
7	学び続ける子どもの姿を目指して ~単元で働かせる見方・考え方を重視した授業研究を通して~	北村 拓也	東近江市教育研究所 所長 田中 慶希	指導主事 小笹 由花	東近江市では、本年度、「学び続ける子どもの姿を目指して~単元で働かせる見方・考え方を重視した授業研究を通して~」を研究テーマに、「子どもが主体となる探究型授業の実現」「単元をデザインする授業スキルの向上」「単元で働かせる見方・考え方を明確にした授業」をキーワードに授業づくりを進めておられる。このことに関わって、協働で研究を進め、授業実践や授業づくりの視点を見いだす。

No.	プロジェクト名	本学担当者	共同研究機関・担当者		研究内容(連携事業内容)
8	「自分の考えをまとめ、表現したり記述したりできる子ども」の育成 ～小学校国語科における授業実践を通して～	北村 拓也	甲賀市立伴谷小学校 校長 松村 隆雅  湖南省立下田小学校 校長 須佐見 浩樹	甲賀市立伴谷小学校 校内研究主任 杉本 賢吾  湖南省立下田小学校 校内研究主任 澤田 良栄	滋賀教育委員会では、令和7年度の取組の重点として「学んだことを基に、自分の考えをまとめ、表現したり記述したりする」指導の充実を掲げている。このことは、学校現場の先生方も課題として捉えており、まとめる力や書く力の向上を校内研究のテーマに設定している学校も多い。このことを踏まえ、今年度校内研究に参加する2校の国語科の研究を通して、「自分の考えをまとめ、表現したり記述したりできる子ども」の育成に向け、必要な授業づくりや国語科の指導の視点を見いだすことを目的とする。
9	「教職員の研修観の転換」に向けた「探究型研修」に関する研究	北村 拓也	滋賀県総合教育センター 所長 太田 義人	研修指導主事 海外 万希子 寺川 絵理 中谷 諭 前田 顕吾	「新たな教師の学びの姿」の実現に向け、教師自身の学び(研修観)の転換を図ることが求められている。このことを受け、滋賀県総合教育センターでは、研修参加者の「豊かな気付きの醸成」につながる「探究型研修」に取り組んでおられる。本研究において、研修実施者と協働で研修をつくることを通して、研修講師の視点から「探究型研修」の実現に必要な視点を見いだすことを目的とする。
10	義務教育現場への「リベラルアーツ」導入実践	渡邊 史	滋賀大学教育学部 附属中学校 校長 石川 俊之	音楽担当教諭 高月 道代	本研究では、「リベラルアーツ」の教育理念を附属中学校に導入することを目的とする。 我が国においてリベラルアーツは、文理融合型の教育モデルとして再評価されており、義務教育段階への応用にも関心が高まりつつある。特に注目されるのは、各教科の学びを基盤としながら、複数の情報や視点を横断的に活用し、知識や経験を統合する中で、課題の発見・解決や社会的価値の創造へとつなげる資質・能力の育成であり、これらを附属中にて展開したい。
11	特別支援学校における児童生徒の発達理解と支援の充実に向けた教員研修の実施	山川 直孝	A特別支援学校	教諭 林 紗稚枝	特別支援学校(知的障害・肢体不自由)の教員を対象に、障害のある児童生徒の理解と支援の充実に向けて、心理アセスメントを活用した研修を行う。
12	中学校通常の学級における特別支援教育の推進に向けたコンサルテーションの実施	山川 直孝	滋賀県内公立中学校	X教諭	通常の学級において、多様な教育的ニーズを必要とする生徒への、個に応じた適切な支援が求められている。そこで本共同研究では、中学校にコンサルテーションを実施し、通常の学級での支援の充実をめざす。

No.	プロジェクト名	本学担当者	共同研究機関・担当者		研究内容(連携事業内容)
13	小・中学校の学びの系統性を意識した授業改善 ～甲賀市モデルによる学ぶ力の向上を目指して～	渡邊 慶子	甲賀市教育研究所 所長 木村健二 甲賀市立伴谷小学校 校長 松村隆雅 (以下、職名校長、略) 伴谷東小学校 松澤源太郎 土山小学校 玉井まゆみ 油日小学校 中嶋政二 甲南第一小学校 近藤秀幸 信楽小学校 上田浩祥 雲井小学校 上田健一 水口中学校 赤尾優文 城山中学校 渡邊幸寛 土山中学校 玉野宏 甲賀中学校 北條浩章 甲南中学校 中條克彦 信楽中学校 乾亜由美	甲賀市教育研究所 課長補佐 原 奈津子	本研究の目的は、甲賀市教員の小中連携を意識した授業力向上を図り、とりわけ「授業づくりを通じた教員の育成」を実現する授業研究の方法をモデル化することである(このモデルを暫定的に「甲賀市モデル」と呼ぶ)。兼ねてより甲賀市では、小学校教員と中学校教員が共同して校内研修の方法を研究したり、授業研究会に校種の別を超えて参加し合ったりしてきた(例えば、令和6年度共同研究事業)。これは、子どもたちの学力向上は、教員の授業力が向上した産物であるという根本理念に基づき、長年実施されてきた取り組みである。この先行研究を素地として、本年度からは新たに、国・社/算・数/理の教材開発や授業実践を小・中教員が共同ですることにより、一層の小中連携を図るとともに、その研究方法を整理して授業改善の視点を得たり、今後広く援用できる「小中連携による授業開発モデル」を提案したりすることを目指す。
14	自覚的な学びを促す小学校国語科の授業デザインの検討 —学習方略の認知と使用に着目して—	長岡 由記	滋賀大学教育学部 附属小学校 校長 神部 純一	教諭 柴原 茜 教諭 野間 隆秀 教諭 伴野 彰宣	本研究は、小学校国語科の学習過程において児童がどのような学習方略を使用しているのかを調査し、児童の自覚的な学びを支える授業デザインの主要な要素を明らかにすることを目的とする。特に、読むことの学習と語彙学習(漢字学習を含む)に関する学習方略について調査を行い、児童が学習方略を効果的に認知・使用できるようになるための指導方法や評価方法について実証的な検討を行う。
15	子どもの「やってみよう！」を引き出す造形活動の工夫 ～遊びや鑑賞を通して育まれる創造力と表現の楽しさ～	青木 善治	豊郷幼稚園 園長 大和 高成	園長 大和 高成	子どもが「つくりたい」と思う気持ちを育み、主体的・創造的に表現する力を伸ばすために、保育者の関わりや環境の構成を工夫しながら、造形活動を中心とした実践を追究する。
16	子どもが夢中になる造形活動の工夫と実践 ～遊びや鑑賞体験を通して育つ表現力～	青木 善治	豊郷町立愛里保育園 園長 小野 淳	園長 小野 淳	保育園児における子どもの「夢中になる力(=主体的に取り組む姿勢)」を大切にしながら、造形遊びや鑑賞体験を通じて表現する喜びや創造する楽しさを育む造形表現活動を明らかにする。
17	感じ・考え 互いに学び合い高め合う 笠縫魂 ～明日につながる保育を求めて～	青木 善治	草津市立笠縫こども園 園長 管 久美子	副園長 宇野 智子	子どもが楽しんで取り組める造形遊びのヒントと、造形遊びを進める上でのポイント・様々な技法等を、保育者への実技を含め学び合う。
18	対話型鑑賞(朝鑑賞)を通じたアート思考と自己肯定感の育成 —他者理解と多様性の尊重を基盤とした感性教育の実践—	青木 善治	彦根市立平田小学校 校長 北川 祐子	校長 北川 祐子	対話型朝鑑賞(朝鑑賞)を通して、児童の自己肯定感の育成および他者理解・多様性尊重の態度の形成に与える効果を明らかにする。
19	中学校音楽科における箏の授業開発プロジェクトⅡ	林 睦	滋賀大学教育学部 附属中学校 校長 石川 俊之	教諭 高月 道代	中学校音楽科における箏の指導について、附属中学校校内研公開授業(12月5日)とも関連させ、地域の学校に新たな箏の授業の提案をすることを目的とする。昨年度の本プロジェクトでの研究をもとに、新たな箏の授業(器楽分野)の提案に取り組みたい。

No.	プロジェクト名	本学担当者	共同研究機関・担当者		研究内容(連携事業内容)
20	附属特別支援学校とおとさぼの連携による「まもり歌」プロジェクト	林 睦	滋賀大学教育学部 附属特別支援学校 校長 世ノ一 善生	教諭 須田ひとみ 教諭 山本 玲奈	附属特別支援学校中学部と附属音楽教育支援センター(おとさぼ)の協同による新たな音楽づくりプロジェクトを実施して研究につなげ、学会等でも発表する。また、おとさぼ体験プログラムに参加している学生の研修の場として、学生の学びにもつなげる。
21	幼児を対象とした身近な用具(モノ)を使用した運動遊びの実践と検討	山田 淳子	草津市立矢倉こども園 園長 檜崎 香	週休加配保育教諭 竹内 智美	本研究では、保育者(担任)が幼児を対象に身近な用具(モノ)を使用した遊びの実践を行い、その成果を幼児の遊びに関わっていく姿から検証することを目的とする。特に運動遊びに焦点を置き、こども園の教育・保育目標の合言葉「こころわくわく やってみよう! はっけんいっぱい それいいね!」の達成につながるような実践を大学担当者と保育者(担任)とで行っていく。
22	幼児の明日の遊びにつながる園内研修のあり方	山田 淳子	草津市立笠縫こども園 園長 管 久美子	副園長 宇野 智子	本研究では、保育者(担任)が年間を通して幼児の健やかな体づくりを目的とした運動遊びの行い方を学ぶ園内研修を試み、その成果を幼児の遊びに関わっていく姿から明らかにすることを目的とする。特に本年度は、保育者(担任)が大学や担当者の助言を得ながら運動遊びの実践を行い、その直後にミニ研修会を行うことに焦点を置く。
23	小・中学校における子どもが主体となる授業づくり —子どもが自らの学びを調整する機会の充実を通して—	山本 はるか	滋賀県総合教育センター 所長 太田 義人	研究員 杉本 淳 研究員 橋本 健	滋賀県では、第Ⅲ期学ぶ力向上滋賀プランの視点1「子どもたちが主体の授業づくり」において、子どもたちが学びを実感できる授業づくりを推進するために、子ども一人ひとりに応じた学習活動や学習課題に取り組む機会や、子どもが自ら問題を見つけ、解決する学習の充実を図っている。しかしながら、令和6年度全国学力・学習状況調査の学校質問紙調査では、「授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか」という設問に対して、肯定的な回答をした割合は、全国平均を下回る。そこで本研究では、子どもが自らの学びを調整する機会の充実を図り、子どもが主体となる授業づくりをめざす。
24	石山っ子わくわく親子で畑体験隊	森 太郎 久保 加織 石川 俊之	大津市石山公民館 館長 中村 浩司	生涯学習専門員 大伴 真由美	農作物の栽培や観察など実体験を重視して農と食の大切さを理解し、食の安全・安心について考えるような「食農教育」が求められている。しかし、学校現場において、そのニーズに対応できるプログラムの確立、対応できる教員の確保は不十分である。そこで、地域の住民(公民館、ボランティアスタッフ)と連携して、園児、小学生の親子を対象に畑体験活動を実施し、「食農教育」の地域連携プログラムを開発する。さらに、教育学部の学生が主体的にプログラムを計画・実施する場面を設け、教育現場において「食農教育」に対応できる人材を育成する。
25	理科指導力向上研修の企画研究 ～CST教員の持続可能性を探る～	○糸乗 前 大山 真満	甲賀市立城山中学校 校長 渡辺 幸寛 (滋賀CST研究会会長)	滋賀CST教員 研修担当:大津・高島ブロック	平成21年度より滋賀大学が継続して認定してきたコア・サイエンス・ティーチャーであるが、既に69名のCST教員と42名の准CSTを送り出した。平成28年には認定CST教員による滋賀CST研究会を発足させ、滋賀県内で6ブロックを設定して活動している。毎年各ブロックでのCST教員による小中学校教員向けの研修会を実施しており、滋賀県内の理科教育へ多大なる貢献をしてきた。これらの活動の中心となる教員研修会を支援する。

No.	プロジェクト名	本学担当者	共同研究機関・担当者		研究内容(連携事業内容)
26	科学的思考力を育成する授業に関する研究	○大山 真満 糸乗 前	竜王町立竜王中学校 校長 岡崎 吉隆	教諭 平木 亮祐 (滋賀CST教員)	児童・生徒の課題解決能力の育成が求められている中、理科という教科においては科学的思考力の育成が重要である。一方で、大学生を見ると、理科においても暗記主体の学習が身につけている。そこで、科学的思考力育成の授業の検討を目的とする。
27	高等学校地理歴史科・公民科における探究の過程を通じた学習活動の充実	岸本 実	滋賀県総合教育センター 所長 太田 義人	研究員:福西 洋一 研究員:黒川 勇暉	高等学校の地理歴史科、公民科のすべての科目は、現行の学習指導要領より「探究」を基盤としたものとなった。本研究は、このような学習指導要領の改訂を受けた授業改善の方向性を具体化し、学習活動の充実のモデルを提案することを目的とする。
28	校内研修における教師のリフレクションの深化	○岸本 実 岸田 蘭子	甲賀市立希望ヶ丘小学校 校長 村地 昭彦	教諭 瀬戸山 茜	教師の専門職性を保障する不可欠の要素は、リフレクションと同僚性である。新しい時代の養成や多様な教育課題に対応するため学び続けるためのリフレクションを校内研究、OJT研修、そして、カリキュラム・マネジメントの3つの取組を三位一体的に推進することにより、リフレクションの質の深化していく校内研修システムの在り方を解明することが本研究の目的である。